

がん検診 Q&A

Q. がん検診で異常なしと言われました。安心してよいですか。

- A. どんな検査でも完璧ではありません。がんがあるのに診断できないこともあります。逆に、がんではないのに「がんがあるかもしれない」と言われる可能性もあります。継続的に検診を受けることが大切です。

Q. がん検診で精密検査が必要と言われました。がんなのでしょうが・・・

- A. 検診はがんの疑いがある人を探すのが目的ですので、がんであるとは限りません。医療機関で精密検査を必ず受けてください。

★ 肺がんの精密検査

エックス線を利用したCT検査、必要に応じて気管支を内視鏡で観察する気管支鏡検査が行われます。

★ 胃がんの精密検査

細い管を口または鼻から挿入して直接胃の内側を観察する内視鏡検査(胃カメラ)を行います。胃内視鏡検査の精密検査では一部組織を採取する検査(生検)を行います。

★ 大腸がんの精密検査

細い管を肛門から挿入して大腸全体の内部を観察する内視鏡検査になります。病変があれば、その部分の細胞を採取して悪性を調べます。便潜血検査を再度行うことは精密検査にはなりません。

★ 乳がんの精密検査

多方向からのマンモグラフィ撮影、超音波検査、しこりなどの疑わしい病変に細い注射針を刺して中の細胞や組織を調べる穿刺吸引細胞診や針生検等を行います。

★ 子宮がんの精密検査

コルポスコープという器具を用いて子宮腔部を拡大して観察し、病変部の組織を採取して病理検査を行います。時に頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)の検査などを行います。

Q. たばこは吸わないので肺がんの危険は低いと思います。毎年検査が必要ですか。

- A. 非喫煙者であっても、他人のたばこの煙にさらされる受動喫煙により肺がんの危険度は高まります。また、肺の末梢に発生するがんは肺中心部に発生するがんに比べたばこの関係が比較的薄く、非喫煙者や女性にも多くみられます。非喫煙者であっても検診は毎年受けましょう。

Q. 先日、血痰があったので、肺がん検診でがんかどうかを確認してよいですか。

- A. 自覚症状がある場合は、医療機関を受診してください。

Q. 胃の痛みや不快感が続いていますが、胃がん検診を受けて良いですか。

- A. 自覚症状がある場合は、医療機関を受診してください。

Q. 痔があります。便潜血検査で陽性になりませんか。

- A. 陽性になる場合もありますが、陽性になった場合には、「痔のせい」と思わず、精密検査を受けてください。

Q. 便秘と下痢を繰り返しています。大腸がんかどうかを検診で確認できますか。

- A. 自覚症状がある場合は、医療機関を受診してください。

Q. 胸を触っていたら、しこりを感じました。乳がん検診でがんかどうかを確認できますか。

- A. しこりや乳頭からの出血等、自覚症状がある場合は検診ではなく医療機関を受診してください。

Q. 不正出血(生理以外の出血)がありました。子宮頸がん検診を受ければよいですか。

- A. 不正出血の原因は多数あります。自覚症状がある場合は、医療機関を受診してください。

Q. 生理中なのですが、子宮頸がん検診を受けて大丈夫ですか。

- A. 原則的に検診は可能ですが、出血量の多い時期は再検査となることがあるため、別日の受診をおすすめします。

がん検診に関するお問い合わせは・・・東金市健康増進課予防係 TEL0475-50-1173

がん検診を受けましょう

がん検診により早期発見・早期治療ができ死亡率減少が認められています。

東金市の実施するがん検診

胸部検診 (肺がん・結核)	対象	40歳以上 男女
	受診間隔 検査方法	毎年 胸部エックス線検査

胃がん検診	対象	40歳以上 男女
	受診間隔 検査方法	毎年 胃部エックス線検査

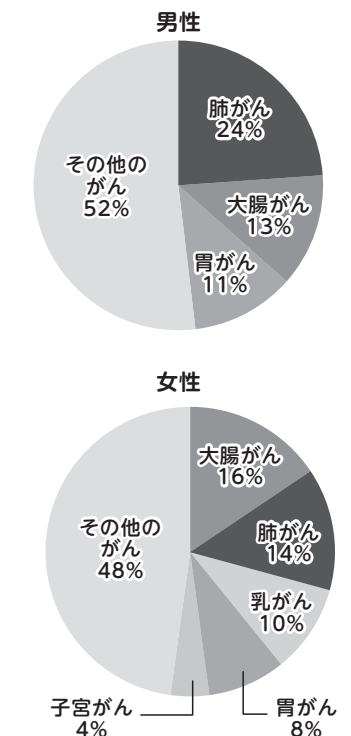
大腸がん検診	対象	40歳以上 男女
	受診間隔 検査方法	毎年 便潜血検査

乳がん検診	対象	30歳以上 女性
	受診間隔 検査方法	毎年 30～40歳、43、45、 47、49歳は超音波 41、42、44、46、48歳、 50歳以上はマンモグラフィ

子宮頸がん検診	対象	20歳以上 女性
	受診間隔 検査方法	毎年 ※「精密検査不要」の場合は 2年後の検診をお勧めします 細胞検査

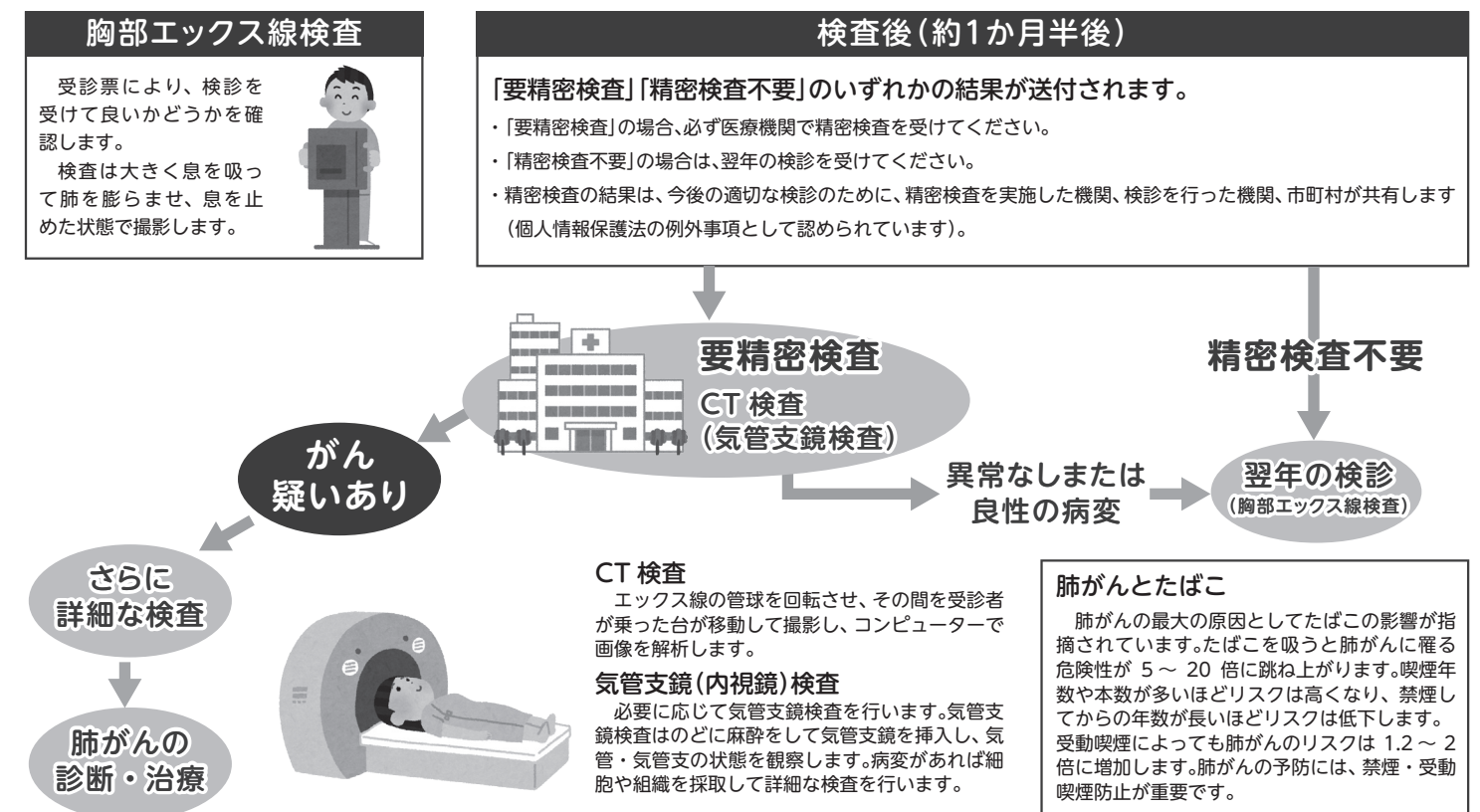
(対象年齢：年度末年齢)

部位別がんの死亡割合(2024年)

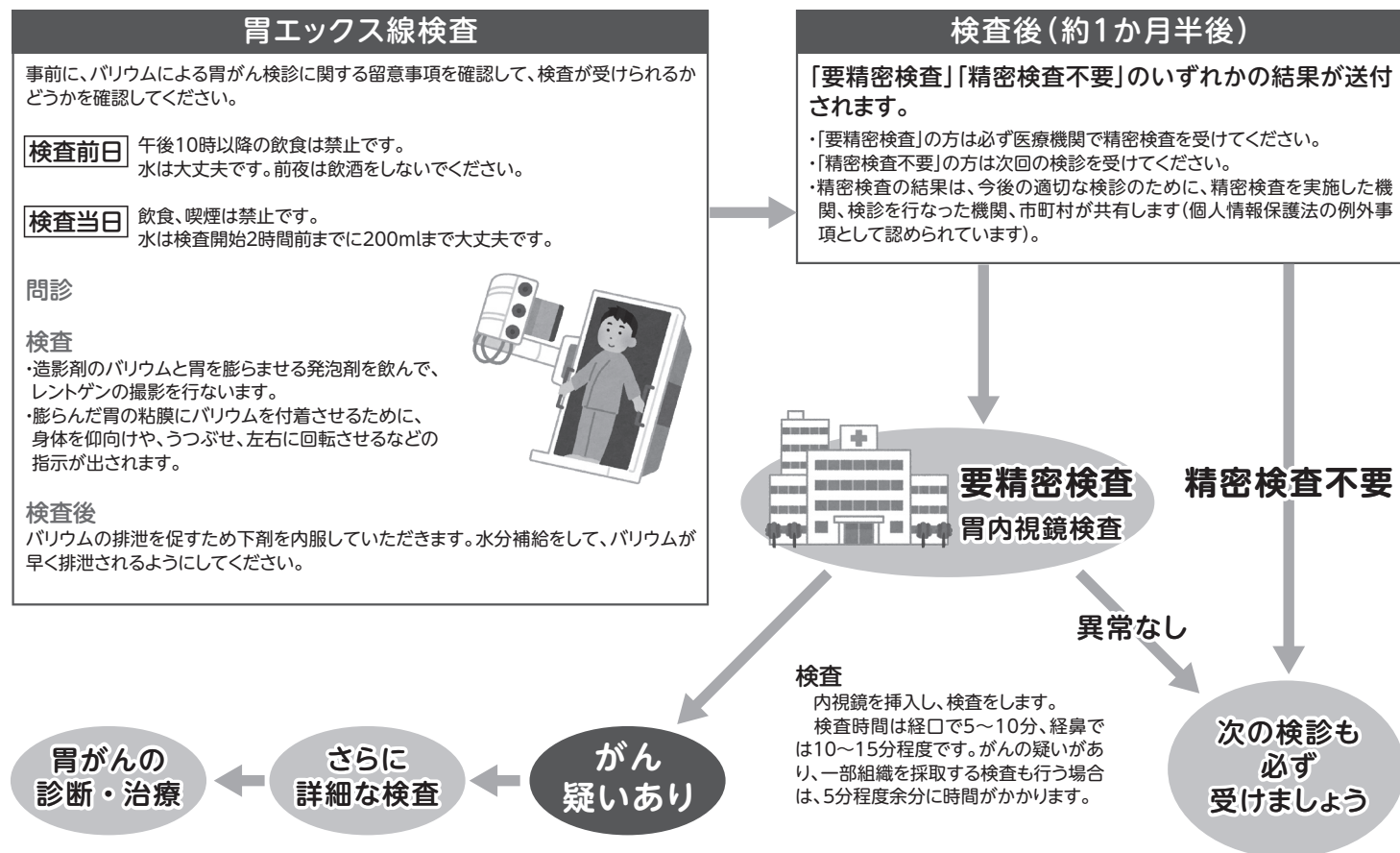


出典：国立がん研究センターがん対策情報センター

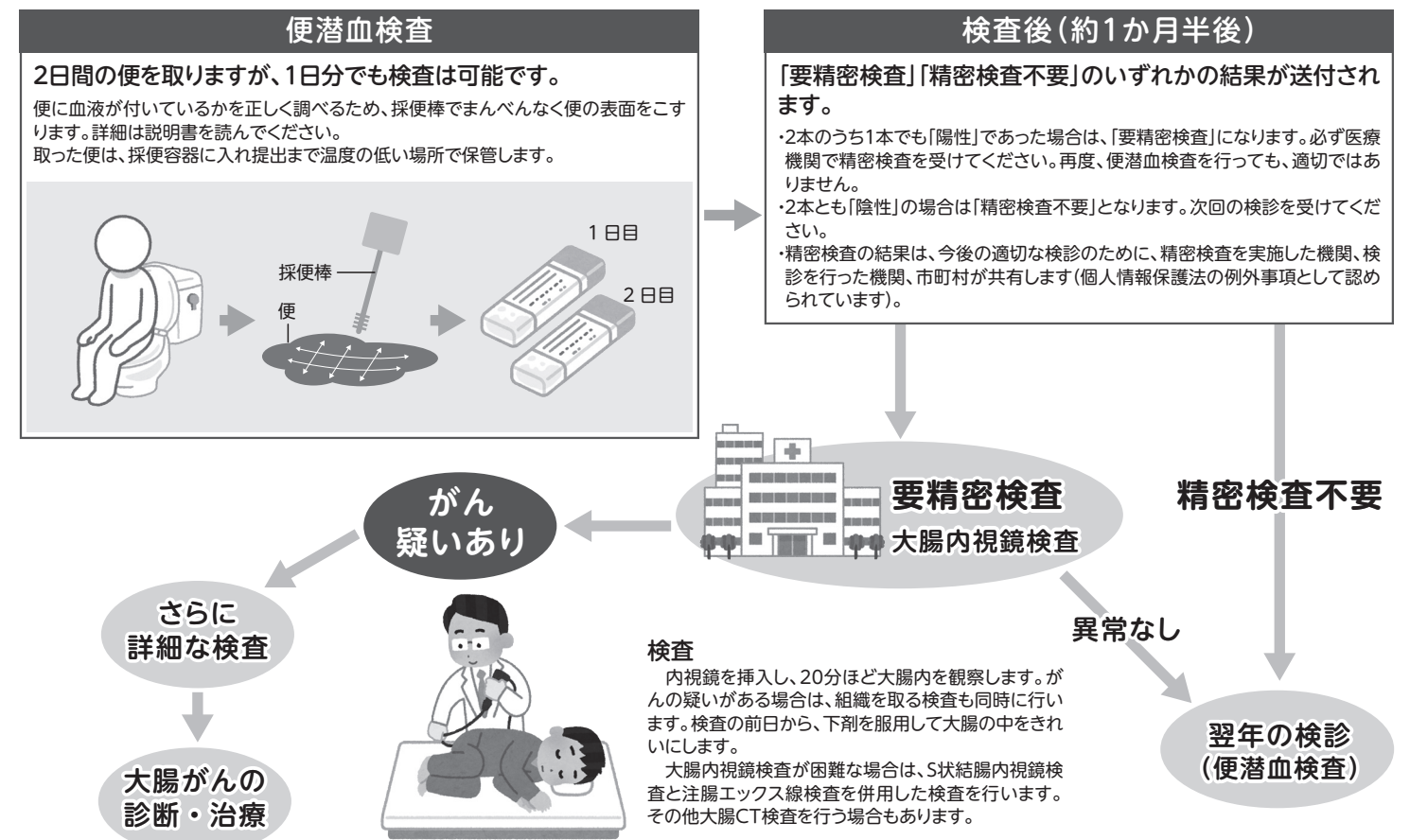
検診の流れ



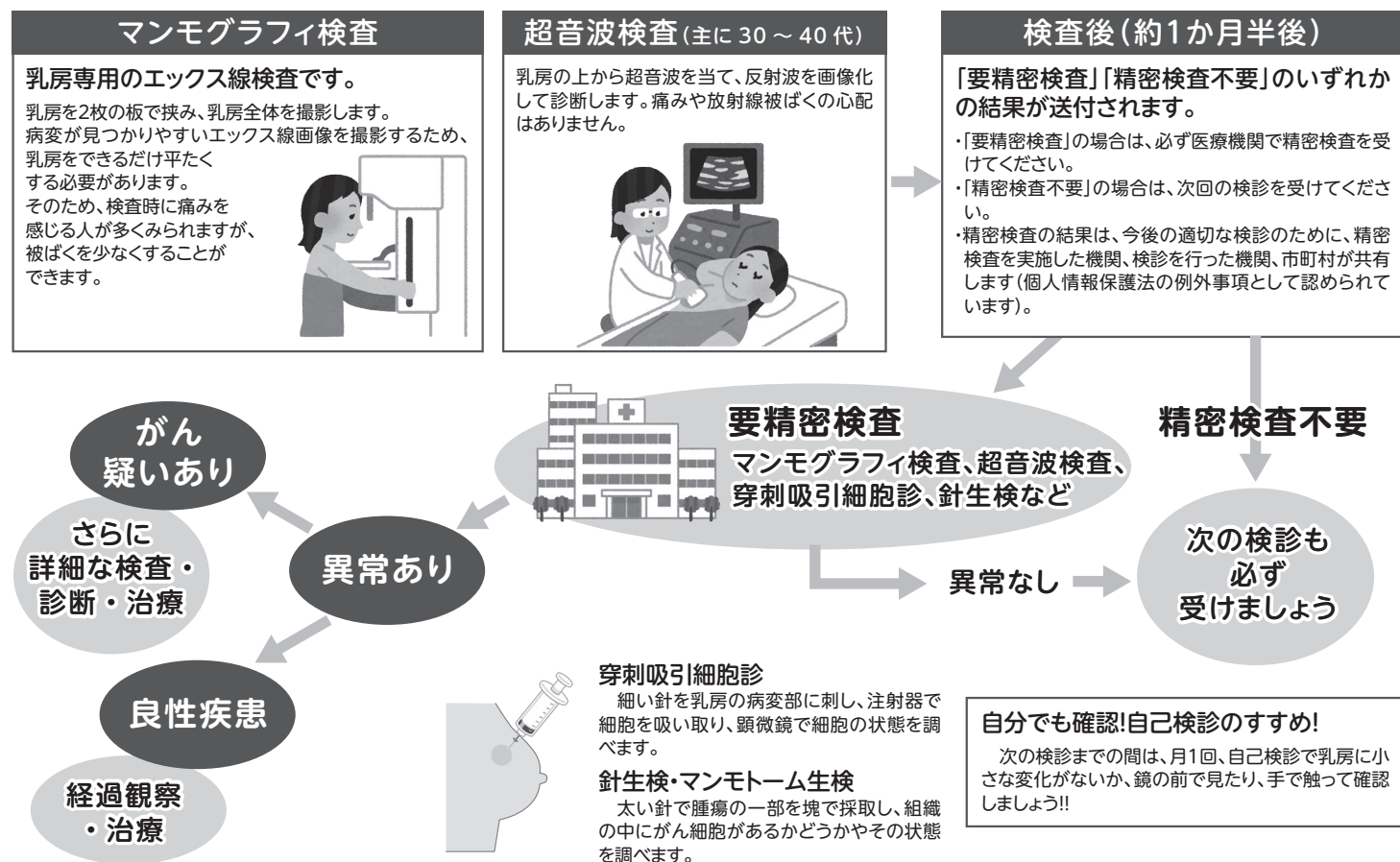
胃がん検診の流れ



大腸がん検診の流れ



乳がん検診の流れ



子宮頸がん検診の流れ

